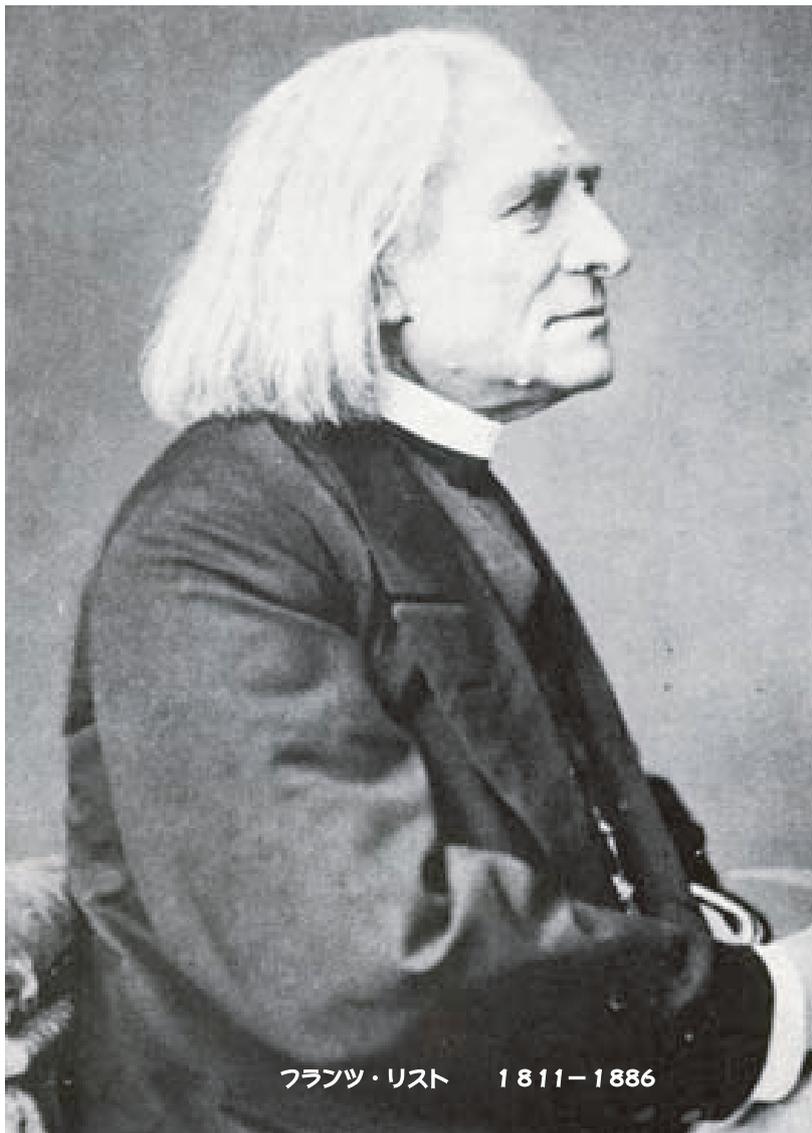
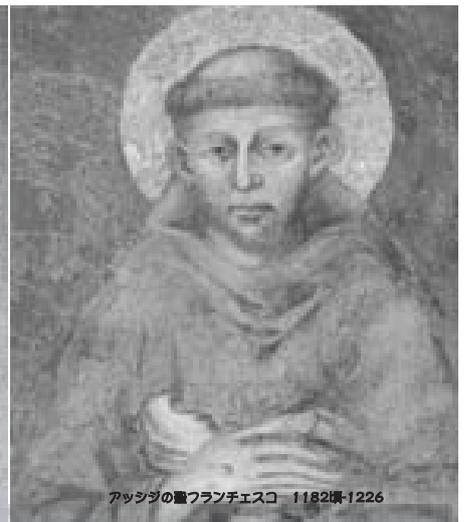


図書館展示 1月/3月●2004

リストの《伝説》と二人の聖フランチェスコ



フランツ・リスト 1811-1886



アッシジの聖フランチェスコ 1182頃-1226



パオラの聖フランチェスコ 1416-1507

企画・解説●市川啓子 (国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

期間●1月13日～3月12日

場所●図書館ブラウジングルーム

はじめに

フランツ・リストのピアノ曲《伝説》は、小鳥に説教するアッシジの聖フランチェスコと波を渡るパオラの聖フランチェスコの2曲で成り立っています。この曲は、50歳代初めにローマの地で失望や心労を味わっていたリストが、聖人の「信じることの強さ」に感銘を受けて作曲したとされています。作曲の精神的動機となったとされる二人の聖人は、どんな人たちだったのでしょうか？このたび、図書館ブラウジングルーム・展示コーナーにおいて、《伝説》のさまざまな楽譜の紹介とともに、アッシジの聖フランチェスコとパオラの聖フランチェスコという二人の聖人の生涯を、いくつかの絵画と図書館資料とでたどってみたいと思います。

今回、テーマ別資料展示を行うに際し、テーマが音楽と絵画、また、宗教の分野に及んでいるため、当館所蔵資料だけでは材料が不足しておりました。そこで、上智大学聖三木図書館、小学館、上智大学文学部名誉教授門脇佳吉先生、ブライス・モリソン氏、当館館員の佐藤徹夫氏にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。また、関連絵画の探索には、武蔵野音楽大学図書館渡辺定夫氏、名古屋芸術大学附属図書館太田成夫氏、共立女子大学青柳加寿子氏、ピアニスト久元祐子氏他多くの方々から貴重な情報をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。そして、解説には、エヴェレット・ヘルム著 野本由紀夫訳『リスト』(大作曲家)(音楽之友社)および『新編世界大音楽全集 リストピアノ曲集 器楽編 18』(音楽之友社)の野本由紀夫氏の解説を参考にさせていただきました。

この展示が音楽作品と宗教、絵画との深い関係についての理解の一助となれば幸いです。

企画・解説 市川啓子(国立音楽大学附属図書館閲覧参考部)

contents

リスト作曲(伝説)	2
展示資料	
図版パネル	4
リストに関する主要な研究書	7
二人の聖人に関する資料	8
(二つの伝説)各出版社の楽譜	11

リスト作曲《伝説》

リストの有名なピアノ作品の一つに《伝説》Legendes(1861-3)があります。1.小鳥に説教するアッシジの聖フランチェスコと2.波を渡るパオラの聖フランチェスコとの二つの曲で成り立っています。最近の研究では、1975年にオーケストラ自筆譜が公にされたことにより、この作品はオーケストラ版の方が原曲で、ピアノ編曲である可能性が出てきました。いずれにせよ、この《伝説》という作品は、リスト50歳代初め、ローマ滞在時期の作品で、ヴィトゲンシュタイン侯爵夫人との結婚計画が頓挫し、他にも失望や心労を味わっていた人生最悪の時期に、聖人の「信じることの強さ」に感銘を受けて作曲したとされています。心の平安に憧れていたリストは、1865年にヴァチカン宮殿でカトリック教会の七つの叙階のうち、下級の四つを受け、聖職者となりました。現在では、「敬虔なキリスト教徒としての晩年」という晩年のリスト像は虚像であるとされ、1930年までほとんど例外なく描かれてきたリストの人物像自体が、巧妙に作られ、念入りに磨かれた《伝説》であると批判されています。ともあれ、この時期のリストには、揺れ動き、自己分裂に苦悩しつつも、宗教への強い憧れがあったことは事実のようで、大規模な宗教的作品を作曲しています。例えば、二つのオラトリオ《聖エリーザベットの伝説》(1857年着手、1862年完成)、《キリスト》(1866年完成)等です。これらと並んで作られたのが、今回ご紹介する《(二つの)伝説》ですが、この作品を作曲する精神的動機となった二人の聖人は、どんな人たちだったのでしょうか。

アッシジの聖フランチェスコ

(1182頃～1226)

第一曲目で取り上げられているアッシジの聖フランチェスコ(1181-1226)は、現在まで続いている「フランシスコ修道会」の創設者で、中世最大の聖人とされている人です。イタリアの富裕な織物商の息子として生まれ、陽気な青年時代を過ごしていました。軍隊に志願しましたが、途中で病気にかかり、病床で神の啓示を受け、清貧を徹底的に実行する修道生活に入ります。父から勘当されると、喜んで着ていた衣服をすべて返し、褐色の粗服、腰に荒縄、はだして説教して回り、ハンセン病者の看護やアッシジ内外の諸聖堂の修理に当たりました。初めのうちはあざ笑い、石や泥を投げつけていた故郷の人たちも、彼の勤勉な信心深い日常に感嘆し始めました。一人、二人と同志の者が集まってきて、教皇インノケンティウス三世から許可を得て「小さき兄弟会」、のちのフランシスコ会と呼ばれる修道会を創立しました。彼の前半の生涯は、ゼフィレリ監督の映画「ブラザー・サン シスター・ムーン」(1972)で描かれ、知



「愛されるより愛すること」- アッシジの聖フランシスコ。(学習研究社)より

られています。

リストが作曲した小鳥の説教の逸話は「聖フランチェスコの小さな花々」という伝記的物語第 16 章の後半で、小鳥たちが耳を傾けて説教を聞く様子や、聞き終わって十字の形で飛び立っていくさまなど、大変叙情的な逸話として有名です。リストは初版の序文で「自分の技量不足で、このテキストの有り余る素晴らしさを表現しきれない」と謙遜しながら、その箇所を引用しています。

この聖人を描いた絵画は数多く残されていますが、この曲に関するものには、最古とされるボナヴェントゥーラ・ベルリングエーリ作「聖フランチェスコ祭壇画」(1235)、また、有名なジョットとその助手たちによる壁画連作(1290 年代)、シエナ画派のフレスコ画(1253~63 年頃)等があります。



パオラの聖フランチェスコ

(1416 ~ 1507)

第二曲目の題材となっているパオラの聖フランチェスコ(1436-1507)は、名前は同じくフランチェスコなのですが、アッシジのフランチェスコの没後約 200 年後に生まれた人で、イタリアのパオラで生まれましたが、むしろフランスで重要な聖人です。若い頃短期間、「フランシスコ修道会」に入っていました。パオラ近くの海辺の洞窟で隠世修道士の生活を送るようになり、ミニム会(「最も小さな兄弟」の意)と呼ばれた托鉢修道会へと発展させていった人です。特に心を読み取るという霊的な力のために有名になりました。1482 年、



『キリスト教美術図典』(吉川弘文堂)より

迷信的な恐怖の中で死に直面していた国王ルイ 11 世を救うために、シクストゥス 6 世によってフランスに派遣され、終油を授けました。その後、シャルル 6 世、ルイ 12 世に仕え、大きな精神的影響を与えました。廷臣は、彼の生活態度から、修道会を「善人」と呼んでいたそうです。このパオラの聖フランチェスコは、リストの守護聖人とのことで、それもあってか、リストはこの作品に対して、終生、特別な愛着を抱いていたそうです。

この曲の初版の序文には、リストの署名入りで、ドイツの宗教派の画家シュタインレ Eduard von Steinle(1810-86)の線描画にインスピレーションを受けて作曲したことが記され、ジュゼッペ・ミッシマツラによって書かれた「パオラの聖フランチェスコの生涯」の第 35 章が引用されています。

図書館資料の中のこの曲に関連する絵画では、コルトー版(Editions Salabert)の楽譜に採録されているものと、Bryce Morrison: Liszt (The Illustrated Lives of the Great Composers)に載せられている絵があります。

展示資料

図版パネル * []内資料より複製

リスト作曲《伝説》初版譜のタイトルページ

A : 1866年 ロツァフェルギー-RÓZSAVÖLGY 出版

最初にブダペストで出版された楽譜。PEST, ches ROZSAVOLGY & Co と記されている。

[Brice Morrison: Liszt. (Omnibus Press, c1989) p.88. 請求記号 C48-512]

リスト作曲《伝説》初版譜のタイトルページ

B : 1866年6月 ウージェル HEUGEL 出版

パリのウージェル社によって、Aの直後に出版された楽譜。このタイトルページには、ビューロー夫人コジマ(リストの娘)への献呈の辞が記され、二つの伝説の版画が掲載されている。

[Alfred Cortot 版(Editions SALABERT, 1949) 請求記号 G7-593]

フランツ・リストの肖像画

1865年、ローマ(53歳)。下級聖職者となり、僧衣をまとったリストの全身像。この年、本人により《伝説》が公開初演される。リストは1865年4月5日、ヴァチカン宮殿の枢機卿ホーエンローエ祈祷室で、カトリック教会の7つの叙階の内、下級の4つを受けた。その後、スータン(カトリックの聖職者が着る黒い通常服)を着用していたが、心の平安を得られたかどうかは定かではない。聖職者になるとの彼の決心は「浄化ではなく、諦念である」と言われている。

[Alan Walker ed.: Franz Liszt. (Barrie & Jenkins, c1970) 請求記号 C4-430]

カロリーネ・フォン・ザイン=ヴィトゲンシュタイン侯爵夫人の写真

1876年頃、ローマ。1847年以来、愛人としてリストに大きな影響を及ぼした女性。1861年、彼女との結婚式を挙げるためにリストはヴァイマルを去ってローマに着いたのだが、最後の最後の瞬間になって、決定が覆されてしまう。それ以後、彼女はローマに定住し、カトリックの信仰に熱中し、多くの宗教的著作に取り組んだ。

[Everett Helm: Liszt. (Rowohlt, c1972) p.110 請求記号 C18-335]

娘コージマと一緒にリスト

1867年の写真。《伝説》は、1866年に出版され、この頃ハンス・フォン・ビューロー夫人であった娘のコージマに献呈された。1870年に、コージマはビューローと別れて、リヒャルト・ヴァーグナーと再婚する。それ以降、1872年まで、父子関係は断絶し、ヴァーグナーとリストとの友情関係も断たれたが、リスト最晩年には、理解しあったという。

[Claude Rostand: Liszt. (Editions du Seuil, c1960) p.76 請求記号 C4-411]

アッシジの聖フランチェスコの肖像

チマブーエ作 聖フランチェスコ像。フレスコ画 サン・フランシスコ大聖堂下堂「栄光の聖母」部分。この聖人の面影を最もよく捉えていると言われる肖像画。

[門脇佳吉編集 池利文撮影「愛されるより愛することを - アッシジの聖フランシスコ -」(学習研究社 1992) 佐藤徹夫氏蔵書 協力:門脇佳吉氏]

サン・フランチェスコ修道院と聖堂

アッシジはイタリアで最も古い都市の一つ。聖フランチェスコの若い頃、市民の手で城壁が築かれ、町全体が中世の面影を残した美しい都市である。丘の上に、聖フランチェスコ修道院と聖堂が建っている。

『世界の聖域 14 アッシジの修道院』(講談社 1981) 上智大学聖三木図書館所蔵図書]

イタリア全図

イタリア全図の中で、関連のあるアッシジ、ローマ、パオラの各都市とメッシナ海峡の位置を示した。

[門脇佳吉編集 池利文撮影「愛されるより愛することを - アッシジの聖フランシスコ -」(学習研究社 1992) 佐藤徹夫氏蔵書 協力:門脇佳吉氏]

聖フランチェスコと彼の生涯

ボナヴェントゥーラ・ベルリンギエーリ作。フランチェスコを描いた現存する最古の絵画。奇跡の物語が左右に3つずつ上下に並んでおり、左の真中が小鳥に説教する場面。1235年 ペシアの板絵 サン・フランチェスコ聖堂。

[『世界の聖域 14 アッシジの修道院』(講談社 1981) 上智大学聖三木図書館所蔵図書]

小鳥への説教(サン・フランチェスコ聖堂 上堂壁画)

ジョットとその弟子たちによるとされる「聖フランチェスコ伝壁画」の15番目にある「小鳥への説教」の場面。ベヴァーニャに向かう途中、あたかも鳥たちが理性をもっているかのように語りかけ、鳥たちは一羽として飛び去らずに耳を傾けたという叙情的なエピソード。制作年代は1290年代の後半とする見方が一般的。

[石鍋真澄著「アッシジの聖堂壁画よ、よみがえれ」(小学館 2000) 佐藤徹夫氏蔵書(当館受入中) 協力:小学館]

小鳥への説教(サン・フランチェスコ聖堂 下堂壁画)

シエナ派の画家の作とされる「小鳥に説教する聖フランチェスコ」。聖書を左手に持ち、右手で鳥たちに語りかけ、鳥たちがじーっと耳を傾けている様子が美しく描かれている。フレスコ画 制作は1253~63年頃。

[石鍋真澄著「アッシジの聖堂壁画よ、よみがえれ」(小学館 2000) 佐藤徹夫氏蔵書(当館受入中) 協力:小学館]

パオラの聖フランチェスコの肖像

作者、制作年は不明。この聖人は、頭巾つきの粗布の修道衣をまとう長鬚の隠者が、T型の杖に寄りかかっている姿に表現される。また、彼のモットーCharitas(愛徳)の文字が記される。

[柳宗玄・中森義宗編「キリスト教美術図典」(吉川弘文堂)p.286 請求記号 R196/K]

天使とパオラの聖フランチェスコ（油絵）

天使がパオラの聖フランチェスコに「Charitas（愛徳）」と記された光輪（ニンブス）を示す油絵。Ubaldo Gandolfini 作。18 世紀。

[Lexikon der Christlichen Ikonographie, Herausgegeben von Wolfgang Braunfels. Bd. 6(Herder, 1974)p.319 請求記号 R703/LG/6]

幼児をよみがえらせるパオラの聖フランチェスコ（銅版画）

この聖人の数多くの奇跡の物語のなかに、幼児をよみがえらせる場面がある。この絵はその場面を描いた Simon Vouet 作の油絵（1655 年）に基づいて、Francois Torteбатと Jean Boulanger によって銅版画に彫られたもの。

[Lexikon der Christlichen Ikonographie, Herausgegeben von Wolfgang Braunfels. Bd. 6(Herder, 1974)p.319 請求記号 R703/LG/6]

波を渡るパオラの聖フランチェスコ（線描画）

リストは、ピアノ曲（伝説）を出版する際、第 2 曲「波を渡るパオラの聖フランチェスコ」の序文に、フランス語で次のように記している。「パオラの聖フランチェスコの数多くの奇跡の中で、最も有名なものの一つは、メッシナ海峡を渡る場面である。船頭たちは、あまりにみすばらしい身なりのこの人を乗せることを拒んだが、彼は気に留めることなく、自信に満ちてこの海を歩いて渡った。現在のドイツの宗教派の最も著名な画家の一人シュタインレは、この奇跡に靈感を受け、カトリックの図像学の伝統に従って描き出した。…」ブライス・モリソン Bryce Morrison 氏によれば、この絵はリストがヴァイマールの書斎で見っていたというシュタインレ Eduard von Steinle(1810-86)作の線画の複製である。

なお、この展示に際し、下記の本の著者ブライス・モリソン氏よりこの貴重な絵を複写して使用する許可をいただいた。

[Brice Morrison: Liszt. (Omnibus Press, c1989) p.87 請求記号 C48-512]



リスト作曲（伝説）初版譜のタイトルページ
B:1866年6月 ウージェル HEUGEL 出版
Deux légendes. [Ed. De travail par]
Alfred Cortot. Salabert, [1949]より

リストに関する主要な研究書

*ご利用希望の方には「当日貸出」を行いますので、カウンターにお申し出ください。

Raabe, Peter. Franz Liszt.

Stuttgart, Cotta, 1931. 2 vols. Bd. 1. Liszts Leben. Bd. 2. Liszts Schaffen. <請求記号 C4-421, C4-422>

ペーター・ラーベ(1872-1945)によるこの2巻から成る『フランツ・リスト』(第1巻『リストの生涯』、第2巻『リストの創作』)は、リスト研究上最も重要な研究資料の一つ。とくに第2巻の後半は、リスト博物館の館長であったラーベが、ヴァイマールにある膨大なリストの自筆資料および筆写資料を綿密に整理して作成した『作品目録』となっており、この作品整理番号は、「R(ラーベ番号)」として国際的に通用している。この第2巻のp.249に、〈伝説〉についての詳細な情報が載せられている。(R17)

Searl, Humphrey. The music of Liszt.

New York, Dover Publication, [c1966, 1st 1954] <請求記号 C10-357>

イギリスの作曲家ハンフリー・サール(1915-82)によるこの『リストの音楽』は、作曲家の目でリストの音楽作品を分析し、魅力を解明し、その先駆性を明らかにしたもので、革新者としてのリストの再認識に貢献した。サールは『グローヴ音楽事典』と『ニューグローヴ世界音楽大事典』の「リスト、フランツ」の項目において、「作品表」を発表した。今日では、「S(サール番号)」として「R(ラーベ番号)」と並んで用いられている。〈伝説〉はS175。

Haraszti, Emile. Franz Liszt.

Éditions A. et J. Picard et Cie, 1967 <請求記号 C4-398>

エミール・ハラスティ(1885-1958)は、ハンガリーの音楽学者。この伝記『フランツ・リスト』は、人間リスト研究に新しい情報や新しい考え方をもたらした。今日、評価が分かれている。

Walker, Alan. Franz Liszt.

1st American ed. Knopf, Distributed by Random House, 1983- 1996. 3vols Rev. ed. Cornell University Press, 1987. Vol.1. のみ

Vol. 1, the virtuoso years, 1811-1847. Vol.2. the Weimar years, 1848-1861 Vol.3. the final years, 1861-1886

<請求記号 J79-108, C47-887, J84-121>

カナダ在住のイギリスの音楽学者アラン・ウォーカー(1930-)による、3巻本の詳細な伝記。この第3巻で、〈伝説〉の第1曲について次のように言及されている。「歴史的に見れば、この曲はクーブラン Couperin の〈ナイチンゲール Le rossignol〉とメシアン Messiaen の〈鳥のカタログ Catalogue d'oiseaux〉を結ぶ作品である。」しかし、「新編世界大音楽全集 器楽編 18」の野本由紀夫氏の解説によれば、「この曲はたんなる〈鳥の描写音楽〉ではない。彼自身序文ではっきり述べているように、リストには聖人のエピソードそのものが重要だったのではなく、この逸話の「精神的動機」を音楽化することが重要だったのである」。

Helm, Everett. Franz Liszt in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten.
(Rororo-Bildmonographien, 185), Rowohlt, [1972] <請求記号 C18-335>

アメリカの音楽著述家・作曲家のエヴェレット・ヘルム(1913-)によって、ドイツ語で書かれたこの本は、上記のラーベ、サール、ハラスティやリナ・ラーマン、アーネスト・ニューマンの伝記等の文献を注意深く検証した上で、書簡や証言資料を数多く提示することにより、<伝説>ではない真実のリスト像を読者に結ばせようとしている。序文によれば、「...真実は中間にあるものである。しかし真実は、...リストを先入観なく新たに観察することで、たどり着ける。人間としてのリストの行状には、人間的な弱さもあった。しかし、その弱さをもみ消しても、強調してもいけないのである。さらに、リストは彼の時代の枠組みの中でしか理解できない。リストは、時代が産んだ申し子であり、 けっしてもったいぶった意味ではなく、広い意味で 時代の<犠牲者>であった。」(野本由紀夫訳)

エヴェレット・ヘルム著 野本由紀夫訳『リスト』(大作曲家)

音楽之友社 1996. <請求記号 C61-214>

上記の本の日本語訳。日本語文献の少ない現状にあって、内容が日本語で読めるというメリットのみならず、訳者による綿密な訳注と最新の研究成果を踏まえた「<補遺章>原著以後のリスト」や主要作品表が付けられている点で、大変有益な労作である。日本で現在、リストについて知る上で必読の書。(今回の企画展示に際して、多くの部分を参考にさせていただきました。)

Morrison, Bryce. Liszt. (The illustrated lives of the great composers)

Omnibus Press, c1989. <請求記号 C48-512>

イギリス生まれで、現在世界各地で国際的に活躍しているピアニスト・著述家・教師、ブライス・モリソンによる伝記。人脈を駆使して、未出版資料等の変な貴重な図版が豊富に盛り込まれている。惜しむらくは、各図版の出典が明らかでないことである。この本の87頁に“St Francis of Paola walking on the waves”と題する絵が掲載されており、E-mailで問い合わせたところ、有り難いことに、「リストが言及しているシュタインレ Steinle の描いた絵の複製である」とのお返事をいただいた。他の本では見られない(伝説)の初版(ロツァフェルギー出版)のタイトルページも掲載されている。

二人の聖人に関する資料

*ご利用希望の方には「当日貸出」を行いますので、カウンターにお申し出ください。

『聖フランシスコの小さき花』フランシスコ会ヴェニス管区編

あかし書房 1982 <請求記号 J100-055>

アッシジの聖フランチェスコは、現在日本では「聖フランシスコ」と呼び慣らされているが、その生涯は、多くの人々によって書かれてきた。正式な伝記としては、1229年に最

初に書かれたトマス・ダ・チェラーノによる『生涯』と聖ボナヴェントゥーラによる『伝記』があるが、この聖人の最も生き生きとした横顔が描かれたものといえば、この『フィオレッティ』(小さき花)であると言えよう。この書は、聖人の死後、この修道士会が3つのグループに分かれて激しく勢力争いをする事態を経験したウゴリーノ・ディ・モンテ・サンタ・マリア Ugolino di Monte Santa Maria という作家が、誠の聖人の理想を伝え、会を刷新するために、聖人の仲間たちを知っている修道士から聴いた逸話を 1327 年頃に『聖フランシスコとその仲間たちの行伝 Actus Beati Franciorum Ejus』としてラテン語でまとめたもので、後にイタリア語に要約されて『聖フランシスコの小さき花 I Fioretti di san Francisco』として 1476 年に活字になり、紆余曲折を経て、世界の古典文学としての評価を得るに至った。リストはこの中の第 16 章にある小鳥たちに説教する場面に宗教的感動を得て作曲したと(伝説)の序文で述べている。

『聖フランシスコの小さき花』永野藤夫訳 大島節子絵

サンパウロ社 2001 <請求記号 J100-077>

大島節子の親しみやすい挿絵入りで、現代日本人向けに素朴平明に訳された本。この他にも、『アシジの聖フランシスコの小さき花』石井健吾訳(聖母文庫)、『小さき花アシジの聖フランシスコ』ホアン・カトレット著者・絵 山内加代子訳者(新世社)等の日本語訳の本が数多く出版されている。キリストの栄光に輝く小さき貧しい人、聖フランチェスコとその幾人かの仲間たちの小さき花々や奇跡の物語は、以前にもまして現代の私たちに、あくことのない感動を起こさせている。

『アッシジのフランシス研究』下村寅太郎著 (下村寅太郎著作集 3)

みすず書房 1990 <請求記号 J72-442>

哲学者・精神史家下村寅太郎による日本で初めての本格的な学術的フランチェスコ研究の書。西田哲学に基づく冷徹な眼と深い人間理解により、「聖者伝」から「伝記」に正す非神話化を遂行しながら、迷いがあり、挫折があり、しばしば激しい怒りがあり、失望や絶望もある人間フランチェスコの凜然たる生涯を描き出した画期的な書である。「小鳥の説教」については、次のように記されている。「『小鳥の説教』は中世の人々には聖者の奇蹟として重要であったが、近代の人々には別の意味で、別個の角度から、フランシス像の要素になっている。フランシスの愛が人間だけでなく、一切の生物に、さらに全自然におよび...フランシスの『世界感』を具象化するものとなっている。...しかし、何よりも重大なことはフランシスの意志の人、行動の人であることが見落とされやすいことである。」

『愛されるより愛することを アッシジの聖フランシスコ』

撮影/池利文 文/遠藤周作 加賀乙彦 編集/門脇佳吉 学習研究社 1992<佐藤徹夫氏蔵書>

アッシジの聖フランチェスコ巡礼の写真集。「主よ わたしを平和の道具とさせてください...愛されるよりも愛することを 望ませてください...」との「平和の祈り」から始まり、美しい写真の一つ一つに祈りと共感をもった解説が付けられている。聖フランチェスコが着用していた修道服の細部までが丁寧に撮影され、サン・フランチェスコ修道院に宿泊し、20日間も生活をともにされた者ならではの...の感動が息づいている。

Saint Francois d'Assise: scenes franciscaines: Opera en 3 actes et 8 tableaux/ poeme et musique d'Olivier Messiaen.

Editions Alphonse Leduc, 1983 <請求記号 X0-665>

多数の宗教的作品を作曲したオリヴィエ・メシアンによって、(アッシジの聖フラソア)と題する3幕8場のオペラが作られた。当館はそのリブレットだけを所蔵している。

スクリーン名曲全集 Shinko Music, 1991 <請求記号 F17-484>

アッシジの聖フランチェスコの前半の生涯は、1972年にゼフィレリ監督の映画『ブラザー・サン シスター・ムーン』で描かれ、ドノヴァンの歌声とともに一躍有名になった。そのメロディーは、この楽譜に収められている。

*この映画のビデオは2月22日より利用可能。<請求記号 VB3106>

混声合唱のための典礼聖歌 高田三郎作曲 カワイ出版 2000<請求記号 F21-584>

『典礼聖歌を作曲して』 高田三郎著 オリエンズ宗教研究所 1992<請求記号 C54-991>

アッシジの聖フランチェスコは、ほとんど書物を残していないが、「太陽の賛歌」と「平和の祈り」は、その精神をあらわしているものとして、現在でも親しまれている。作曲家高田三郎は、1982年の第13回教会音楽祭「世界平和のために」で歌われるべく委嘱されて、「平和の祈り」に作曲した。その作曲に際しての感想を次のように述べている。「テキスト作成中、私は、だんだん『これは大変な祈りだ』という思いが深くなって行き、作曲する段階になって、これらの各箇条にはひとつとして私にできないと思うようになりました。...そしてただひとつ「神よ、私に望ませてください」と願うことなら私にもできると思い、それにすがって作曲していきました。そして、ここに並んでいるたくさんの箇条のひとつひとつが、宝石のように光り、金のように輝いていることにも気づきました」。

黄金伝説 第4巻 ヤコブス・デ・ウォラギネ著 前田敬作・山中知子訳

人文書院 1987 <請求記号 J76-846>

キリスト教聖人伝 Jacobus a Voragine: Legenda aurea.の全訳。4巻から成るが、第4巻に「143:聖フランキスクス(フランチェスコ)」(p.35-63)として、アッシジの聖フランチェスコの生涯が記されている。ジョット「小鳥に説教する聖フランキスクス」の絵画も掲載。

Lexikon der christlichen Ikonographie. Hrsg. von Engelbert Kirschbaum, in Zusammenarbeit mit Gunter Bandmann [et al.]. Bd.6

Herder, 1968. <請求記号 R703/LC/6>

パオラの聖フランチェスコに関する単独の資料は、ほとんどない。リストの時代に流布されていたというミッシマツ著「パオラの聖フランチェスコの生涯」も残念ながら、探索できなかった。この事典は、キリスト教関連の図像についての情報を幅広く集めており、パオラの聖フランチェスコの絵画についても多くの情報と、2つの図版(絵画)が掲載されている貴重な資料である。この他には、「キリスト教美術図典」(吉川弘文堂)<請求記号 R196/K >p.286~287に簡潔な伝記と肖像図がある。

《二つの伝説》各出版社の楽譜

*「当日貸出」に応じますので、ご利用の方はカウンターにお申し出ください。

サラベール社 アルフレッド・コルトー校訂 <請求記号 G7-593>

Deux legends. [Ed. De travail par] Alfred Cortot. Salabert, [1949]
(Edition de travail des oeuvres de Liszt)

パリのサラベール社から出版されたアルフレッド・コルトー校訂の楽譜。表紙を開けると、見開きで 1866 年ローマでのリストの肖像画とウージェル社の初版譜のタイトルページが載せられている。コルトーの序文に続けて、リスト自身が初版出版の際にフランス語で記した序文が掲載されている。各頁ごとにトリルの指使い等、コルトーによる細かい指示が記されている。

ブダペスト音楽出版社 <請求記号 G15-222>

Legendes. Ed. by Imre Sulyok and Imre Mezo.
Editio Musica, c1980

1980 年にハンガリーのブダペスト音楽出版社から出版されたこの楽譜は、同年に出された「新リスト作品全集」のシリーズ - 10 - 巻の個別販売版である。第 1 曲: Die Vogelpredigt, 第 2 曲: Der heilige Franziskus von Paula “auf den Wogen schreitend”とドイツ語の副題が付されている。また、リストによる序文は、引用文がイタリア語で記され、その後フランス語訳が付されている。ただし、校訂報告は付けられていない。

リコルディ社 <請求記号 G7-588, 587>

Légende de St. François d'Assise, la predication aux oiseaux. [Ed. by Gino Tagliapietra]. Ricordi, [1946]
S. Francesco di Paola, che cammina sulle onde; Leggenda per pianoforte. [Ed. by Felice Boghen]. Ricordi, [1947]

リコルディ社からは、1 曲ごとに別々の校訂で出版された。「アッシジ...」の方にはリストの序文は付けられていないが、「パオラ...」の方には、伊・仏・英語の 3ヶ国語に訳されて載せられている。ただし、ミッシマツラの「...の生涯」からの引用文は載せられていない。第 2 曲「パオラ...」には、ペダリングの指示が音符を用いて細くくなされている。

クルチ出版社 <請求記号 G7-590, 589>

Due leggende. Edizioni Curci, c1950

S. Francesco d'Assisi: la predica agli uccelli.
S. Francesco di Paola che cammina sulle onde.

ミラノのクルチ出版社から、個別に出版された楽譜。リストの序文は掲載されていない。

ペーターズ社 <請求記号 G19-916>

Two legends. Ed. by Emil von Sauer. Edition Peters, [1970].

1. St. Francois d'Assise “La predication aux oiseaux”
2. St. Francois de Paule marchant sur les flots

このペーターズ社の楽譜は、ロマン派の楽譜の校訂で有名なエミール・フォン・ザウアーによ

る校訂。1冊に2曲とも収められている。イギリス版であるゆえか、タイトルは英語で、副題はフランス語で記されている。細かな指示がなく、あっさりとした譜面である。

ブライトコップ・ウント・ヘルテル社 <請求記号 G22-540>

Zwei Legenden. Hrgb. von José Vianna da Motta. Breitkopf & Hartel, c1988.

Die Vogelpredigt des Heiligen Franziskus von Assisi.

Der Heilige Franziskus von Paula auf den Wogen schreitend.

ブライトコップ・ウント・ヘルテル社では、1907年から1936年にかけて、いわゆる「リスト旧作品全集」を刊行したが、この楽譜は、その全集のシリーズ - 9巻を基にしている。Jose Vianna da Motta 校訂。2曲とも収められている。

シュott社 <請求記号 G7-564,586>

Legende. Nr. 1, Nr. 2. Neuauflage von August Schmid-Lindner.

B. Schott's Sohne, c1917 (Edition Schott; 06476 1/2, 06478 1/2)

シュott社より、1曲ごとに出版された楽譜。校訂注記はほとんどないが、付けられるときは、独・仏・英の3ヶ国語に訳されている。

E. F. カルマス社 <請求記号 G7-591,592>

Legend; bird sermon of Saint Francis of Assisi. Edwin F. Kalmus, [19--]

Legend; Saint Francis of Assisi marching over the waves. Edwin F. Kalmus, [19--]
(Kalmus piano series)

ニューヨークのカルマス社から1曲ごとに出版されたこの楽譜は、校訂もなく、第2曲のタイトルを間違えている。2曲ともアッシジのフランチェスコの伝説と勘違いしかねないので、要注意。

オルガン用編曲版

アルフォーンズ・ルドゥック社 <請求記号 G22-300>

Saint Francois de Pule marchant sur les flots. Pour Orgue. Transcription:

Lionel Rogg.

Alphonse Leduc, c1988.

第2曲 波を渡るパオラのフランチェスコ を Lionel Rogg がオルガン用に編曲して、ルドゥック社から出版した楽譜。

オーケストラ・スコア

ブダペスト音楽出版社 <請求記号 E10-426>

Légendes für Orchester. 1st ed. Ed. by Friedrich Schnapp.

Editio Musica Budapest, c1984.

リストがこの曲のオーケストラ版を書いたことは、古くから知られていたが、その楽譜は出版されないままであった。その自筆譜が100年以上を経た1975年にマールブルクの競売で初めて公に出された。それにより、オーケストラ版の方が原曲で、ピアノ編曲である可能性が出てきた。このオーケストラ版は、1984年にブダペスト音楽出版社からミニチュア・スコアとして出版されたもの。校訂者 Friedrich Schnapp による独・英・ハンガリー語での序文と独語の校訂報告が付けられている。

フランツ・リスト音楽作品全集（旧全集）

ブライトコップ・ウント・ヘルテル社 <請求記号 A1-038>

1907年から1936年にかけて、旧作品全集に当たる「フランツ・リスト音楽作品全集」がブライトコップ・ウント・ヘルテル社から刊行された。これは、ラーベやブゾニを中心とするフランツ・リスト財団からの刊行であったが、33巻までで終刊してしまった。ピアノ曲（伝説）はシリーズII-9巻に掲載されている。Jose Vianna da Mottaによる校訂で、リストの序文が独・仏・英・ハンガリー語で載せられている。

新リスト作品全集

ブダペスト音楽出版社+ベーレンライター社 <請求記号 A7-378>

1970年から、ブダペスト音楽出版社からベーレンライター社の協力の下で「新リスト作品全集」の刊行が始められた。編纂作業は国際的協力を得ながら、ブダペストの研究者を中心に行われており、新発見や新しい情報が提供されるなど、きわめて有用な楽譜である。ピアノ曲（伝説）はシリーズ-10-巻に掲載されている。各々の曲のリストの序文が載せられ、校訂報告で初版についての事情が明らかにされている。また、付録として、第2曲の「簡易版」も載せられている。

新編世界大音楽全集

音楽之友社 <請求記号 A9-893>

リスト ピアノ曲集 器楽編 18 解説：野本由紀夫

音楽之友社 1991

1991年に音楽之友社による「新編世界大音楽全集」の「リストピアノ曲集 II」として、「新リスト作品全集」の邦訳版が出版された。リストの序文が日本語で読めるほかにも、野本氏による書き下ろしの解説も載せられており、日本人の演奏家・研究者・学習者にとって待望の楽譜である。



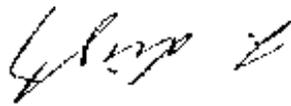
この解説で用いている出版社の日本語表記は、高橋淳著「楽譜の正しい選び方」（春秋社）<請求記号 C48-283>に基づいています。

二人の聖人の名前「フランチェスコ」は、イタリア語、フランス語、英語からの訳により、フランチェスコ、フランソア、フランシスコ他、色々の呼び方がありますが、ここでは、引用箇所を除き、基本的に「フランチェスコ」と記しました。

（伝説）の2つの曲名も様々な訳がありますが、ここでは「新編世界大音楽全集」に準拠しました。

展示されているアッシジの聖フランチェスコの絵葉書やパンフレットは、館員樋口眞規子氏に提供していただきました。

図書館展示
2004.1.13-3.12



フランツ・リスト 1811-1886

リストの《伝説》と二人の聖フランチェスコ

国立音楽大学附属図書館 2004.1.20